

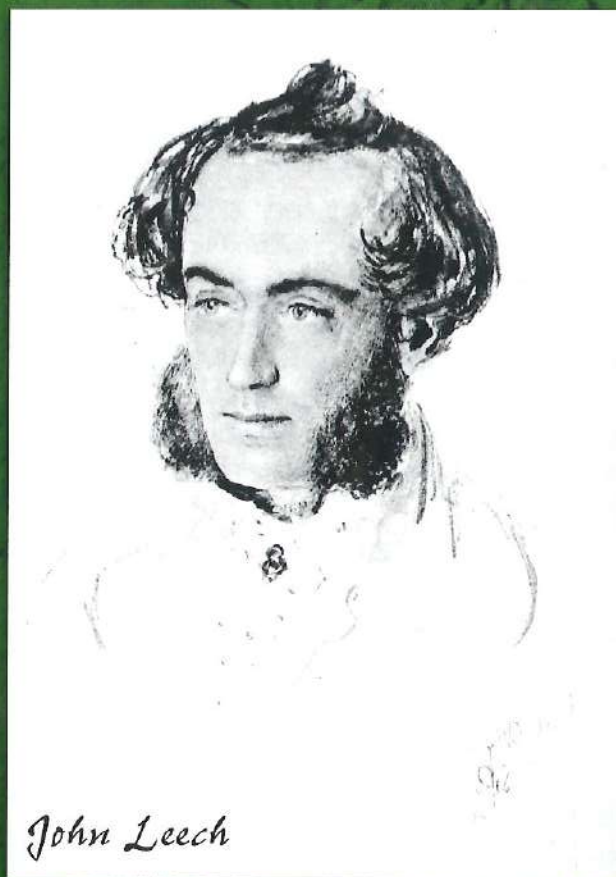
ATHENA LIBRARY OF LIFE WRITING

LW
004

2011

【ライフ・ライティング】シリーズ Part 4

イギリスの芸術家 I



チャールズ・ディケンズを共通の友にもつ、
19世紀に活躍した芸術家ウィリアム・フリスの自伝と、
彼が書いた挿絵画家ジョン・リーチの伝記を復刻。
ヴィクトリア朝時代の文芸活動の内情を垣間見る好材料。

別冊解説：松村昌家(大手前大学名誉教授)

Part 4: Volumes 19-23

定価(本体 84,000 円+税)

ISBN 978-4-86340-097-9 ・ 全5巻(分売可)+別冊解説

Athena Press

W. P. フリス著『自伝』と『ジョン・リーチ伝』

—復刻の朗報—

松村 昌家 ● 大手前大学名誉教授

アティナー・プレスから、新企画ライフ・ライティング・シリーズの一環として、William Powell Frith 著 *My Autobiography and Reminiscences* (1887-88) と John Leech: *His Life and Work* (1891) の復刻計画の報せを聞いて、私は膝を打った。画家による画家のライフ・ライティングとして出色の二大著が、日本において復刻されることに、大いなる喜びと興奮を禁じ得なかったのである。

フリスの『私の自伝と回想』(以下『自伝』)は全3巻1192頁から成る。最初は2巻本として刊行されたが、大変な好評を博し、出版社(リチャード・ベントリー・アンド・サン)からの強い要望に応じて、総インデックス付の第3巻がつけ加えられた。文字どおりフリスの生い立ちから画家としての人生が余すところなく網羅的に語られているのである。

興味深いのは、その『自伝』第2巻と第3巻には、ジョン・リーチに関する章が一つずつ設けられているにもかかわらず、『自伝』を書き終えたあと、フリスは時を経ずして『ジョン・リーチ、その生涯と仕事』(以下『ジョン・リーチ』)の執筆にとりかかっていることである。この後輩画家に対してよほどの関心が深く、共感するところが大きかったことを、物語っているといえよう。

この両者にはいろいろな共通点があるが、第一にあげたいのは、彼らにとってチャールズ・ディケンズが共通の友であったことだ。フリスもリーチも、ディケンズとの交友がなかったならば、今日私たちが知るフリスやリーチにはなり得なかったかもしれない。

フリスが画家として初めてロイヤル・アカデミーに登場したのは、シェイクスピアの『十二夜』に因んだ『十字の靴下どめをして現れたマルヴォーリオ』という作品によってであった。その頃のフリスは、文学作品の挿絵画家的な存在であったのである。

しかしフリスの願望はモダン・ライフを描くことであった。ディケンズ流に言えば、「日々の生活と日々の人びと」を描くことが、彼にとっての目標だったのである。1841年、彼はディケンズの『バーナビー・ラッジ』のヒ



ロイン、ドーリ・ヴァーデンと出会って、遂に「その時がきた」を感じる。ドーリ・ヴァーデンから得たインスピレーションによって彼はモダン・ドレスの難問を乗り越えて、やがて『ラムズゲイトの砂浜』『ダービーの日』『鉄道駅』などを含む当世の生活風景の物語絵(ナラティヴ・ペインティング)の大作を生み出したのである。

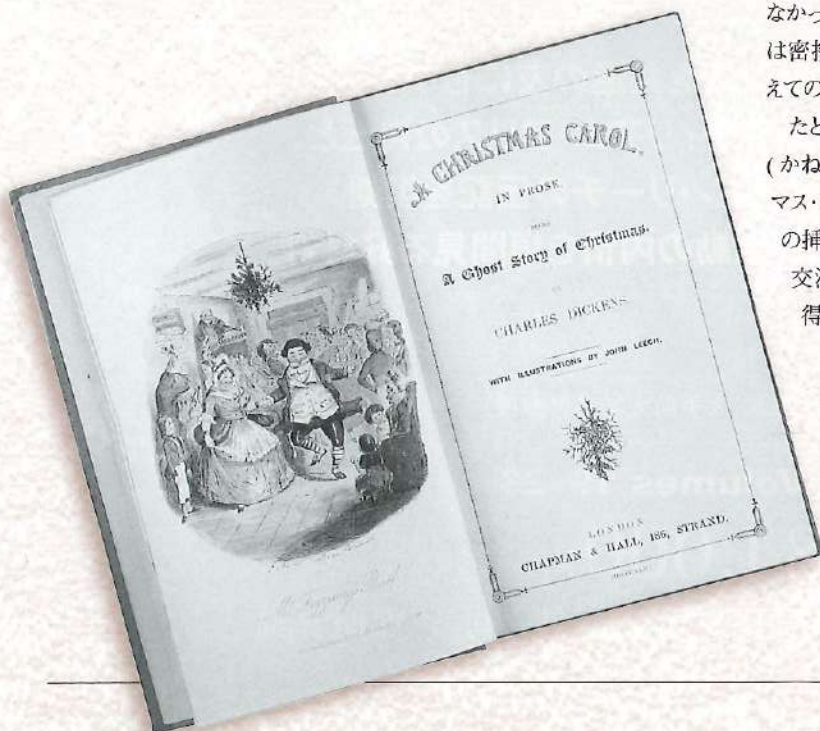
そんな道を歩んだフリスが、ディケンズの『クリスマス・ブックス』一わけでも『クリスマス・キャロル』の挿絵画家としてのリーチの才能に打たれ、共感したのは当然であろう。そしてフリスは、リーチの描く『パンチ』絵に対しても、賛辞を惜しまなかった。

『パンチ』誌上で活躍しはじめた頃、リーチは油絵にも挑戦してみたが、それは失敗した。しかしフリスから見るとその失敗は、リーチにとって「姿を変えた天の恵みであったのだ」。なぜならリーチは『パンチ』画家として、「この世に人間性が存在する限り、世代を超えていつまでも人びとを楽しませて止まない作品を遺したのだから」。

もしもリーチの身の上に何かが起こっていたなら『パンチ』の存続も危なかったであろうと、フリスが言うほどに、リーチと『パンチ』との結びつきは密接であったのは事実である。しかし『ジョン・リーチ』には、それを超えてのリーチ論が展開されているのを見落とすわけにはいかない。

たとえば、『ジョン・リーチ』第1巻における「ダグラス・ジェロルド作『金(かね)で出来た男』」の章や第2巻における「インゴルズビー物語」「トマス・フッドとリーチ」の章を読んでみよう。それぞれの文学作品とリーチの挿絵との交響の様相が見事に解き明かされている。文学と絵画の交渉のあり方に関心をもつ者にとって、多くの有益な刺激とヒントを得ることができるだろう。

イギリス絵画の最大の特徴は、そのインスピレーションの根源が文学の世界にあることだと、Sacheverell Sitwell は言っているが、その最もよい例が、フリスとリーチの作品に見出せると思うのである。フリスの『自伝』と『ジョン・リーチ』は、すなわちナラティヴ・ペインティング研究のテキストであり、そのための不可欠な座右の書として、その復刻を歓迎したいのである。



Contents

Volumes 19–21: William Powell Frith *My Autobiography and Reminiscences* (1887; 1888 ed.)*ISBN 978-4-86340-098-6 • 3 vols • 1224 pp., 7 pl., ill.
51,000円+税

Early Days • My Future Destiny Discussed • My Career Determined • The School of Art • The Life School • Practice in Portrait-Painting • “Posting” from Harrogate to London • First Attempts at “Subject-Pictures” • My First Success • Elected an Associate • The “Old English Merry-Making” • Dinner-Party at Lord Northwick’s • On Subjects • Picture-Seeing in Belgium and Holland • Service of Art in Detection of Crime • The “Coming of Age” • Subjects from Goldsmith, Smollett, and Molière • The Hanging Committee • Hanging Reminiscences • “Ramsgate Sands” • “The Derby Day” • Portrait of Charles Dickens • Success of “The Railway Station” • “The Marriage of the Prince of Wales” • The Great Actors of My Youth
 “The Salon d’Or” • Rejected Subjects • The Pious Model • Visit to Italy • The Bearded Model • “The Road to Ruin” • The Fonthill Story • “The Race for Wealth” • A Mysterious Sitter • John Forster and the Portrait of Charles Dickens • Second Visit to the Low Countries • The Doctor’s Story • “For Better, for Worse” • Models – Thievish • “Old Masters” • A Successful Dealer • A Strange Adventure • Men-Servants • “The Private View” • Dr. Doran • My Later Professional Work • A Strange Purchase • The Crazy Artist • John Leech • A Ghost Story • The Story of My Portrait • Jenny Lind, Mr. Barnum, and Others • Lady Artists • People I Have Known • Postscript • Great Names, and the Value of Them • Prelude to Correspondence • Early Correspondence • Asylum Experiences • Various Anecdotes • An Over-True Tale • Scraps • A Yorkshire Blunder • Richard Dadd • An Old-Fashioned Patron • Another Dinner at Ivy Cottage • Charles Dickens • Sir Edwin

Landseer • George Augustus Sala • John Leech • Shirley Brooks • Admirations • On Self-Delusion and Other Matters • Fashion in Art • A Story of a Snowy Night • English Art and French Influence • Ignorance of Art • Oratory • Supposititious Pictures • A Variety of Letters from Various People • Mrs. Maxwell • Book Illustrators • More People Whom I Have Known • Index

* Originally published in 2 volumes in 1887, followed in 1888 by a 3-volume edition which included a reissue of the first 2 volumes with a third volume added carrying the additional title of *Further Reminiscences*.

Volumes 22–23: William Powell Frith *John Leech: His Life and Work* (1891)ISBN 978-4-86340-099-3 • 2 vols • 598 pp., 6 pl., ill.
33,000円+税

Early Days • Early Work • Mr. Percival Leigh and Leech • Meeting of Mulready and Leech • “The Physiology of Evening Parties,” by Albert Smith • John Leech and the Eton Boy • Mr. Sponge’s Sporting Tour • “The Marchioness of Brinvilliers,” by Albert Smith • “A Man Made of Money,” by Douglas Jerrold • Albert Smith and Leech • Mr. Adams and Leech • “Comic Grammar” and “Comic History”
 “Punch” • Cartoons • The Lawyer’s Story • Love of Field Sports • Inventors and Illustrators • “Ingoldsby Legends” • Dickens and Thackeray on Leech • Dean Hole • Types • Leech and His Predecessors • Kenny Meadows • “Comic History of Rome” • Personal Anecdotes • Sporting Novels • The “Bon Gaultier Ballads” • Michael Halliday and Leech • Thomas Hood and Leech • Dr. John Brown and Leech • Autograph-Hunters and Others • Artists’ Lives • Leech Exhibition • Millais and Leech • Mr. H. O. Nethercote and John Leech

William Powell Frith (1819–1909)

ヨークシャー生まれ。幼少時代より両親に絵を描くことを勧められた。1835年からロンドンの私学で絵を専門的に学び、のちにロイヤル・アカデミーで1837年まで過ごす。そして肖像画家としてスタート、1840年代を通じて歴史・文学分野の題材を扱う肖像画家としての地位を築いていく。熱心な読書家でもあり、ディケンズ、ゴールズミス、スコット、スターンらの作品の情景や人物を多く描いている。1842年にディケンズ作品の登場人物、Dolly VardenとKate Nicklebyを描く依頼を受けて以来、ディケンズとは生涯の友で

あった。1853年にはロイヤル・アカデミーの正式会員となる。

しかしフリスがフリスとして最もよく知られるのは、同時代のヴィクトリア朝社会の情景を描いた画家としてであった。ジョン・リーチ (John Leech) に親しい友人らに応援されて、フリスは日常生活を題材とした初めての作品、「ラムズゲート・サンズ」(Ramsgate Sands)の名でも知られる有名な「Life at the Seaside (1854)」を製作した。この作品は非常に好評で、ヴィクトリア女王が購入するところとなったほどで、それからフリスはさらに二つの風俗画の大作「ダービー開催日 (Derby Day, 1858)」、「駅 (Railway Station, 1862)」を製作する。これらの作品をはじめ彼の風俗画は、展覧会では尋常ならざる大勢の観覧者を集め、例外的な高値で売買された。彼の群衆を描く能力、性格や顔つきを描き分ける観察眼が彼の作品に素晴らしい成功をもたらしており、これらの作品はヴィクトリア時代の社会と風俗の非常に貴重な画像記録となっている。

一方1880年頃からは、商業的で作風が古めかしいとして、当時新進のラファエル前派や耽美主義の攻撃対象となっていた。対してフリスは1883年作品「ロイヤル・アカデミー展の招待日1881年 (Private View of the Royal Academy, 1881)」の中に、新しい芸術スタイルを唱道するオスカー・ワイルドにうっとりとする一連の女性たち(その中にリリー・ラングトリフやエレン・テリャーらしき姿もある。)を描き込んで、自分を批判するグループを風刺している。

若いころからロンドンの文芸、芸術の中心で生きてきたフリスが68歳で自伝を著わすと、絵画同様ヴィクトリア朝芸術の世界に対する味のある、活き活きとした洞察を発揮して、文章の世界でもまたもや大いなる成功を手にする。それから数年後には、彼の友人 John Leech についての愛情あふれる内容の伝記もしたためている。

John Leech (1817–1864)

ロンドンのLudgate Hillで育つ。そこは父が経営するコーヒー・ハウスで、日頃から常連客だった政治家や商人、ジャーナリストに混ざって成長した。

チャーターハウス校 (サリー州のバブリックスクール、Charterhouse School) でサッカー (William Makepeace Thackeray) に出会い、生涯の友となる。聖バーソロミュー病院 (英国最古の病院) で医学を学び、そこでアルバート・スミス (Albert Smith)、パーシバル・リー (Percival Leigh)、アーサー・ア・ベケット (Arthur à Beckett) といっ

た学友たちと親しくなる。彼らの作家・小説家としてのキャリアは後々リーチ自身に大いなる助力となる。

リーチは若いころから絵を描く才能に優れており、1836年にあるフランスの風刺画家のもとで短期間学んでいる。イギリスにもどってからは社会風刺にフランスの人間喜劇の伝統に基づく新しい技法をもたらし、石版、銅版の流麗なデッサン画家として評判になる。木版画の再流行と、木版印刷の発展で挿絵雑誌が増えてくる中、リーチはオリン・スミス (Orrin Smith) からその技術を学ぶと、1840年に文芸雑誌 *Bentley's Miscellany* のスタッフとなる。1841年に *Punch* の創刊に関わり、1842年の終わりから続く20年間同誌にイラストを提供し続けた。ヴィクトリア朝初期の社会や典型的な人物像についての比較的穏やかな風刺画に秀でていて、特に同時代の家庭ものやスポーツものが得意であった。

リーチはまた、パーシバル・リー、ジゼルベルト・ア・ベケット (Gilbert à Beckett)、ダグラス・ジェロルド (Douglas Jerrold)、R・S・サーティース (R. S. Surtees)、そしてチャールズ・ディケンズら、当時の流行作家の作品に挿絵を提供して、小説のイラストレーターとしても名を馳せる。また、*The Field*、*Once a Week*、*The Illustrated London News* など、あらゆる挿絵雑誌に広く作品を提供した。

リーチと交友関係にあった時代の先端をゆく優れた芸術家たち—ジョン・ミレー (John Millais)、ウィリアム・フリス (William Powell Frith)、オーガスタス・エッグ (Augustus Egg) など—は、いずれも日常生活の情景を描くリーチから影響を受けた人々でもある。

研究の新たな視点を切り開く、「ライフ・ライティング」のテーマ別集成。自伝や評伝、回想録、日記類、手紙、あるいは旅の記録など、文字ばかりでなく口述されたものもその範囲とする「ライフ・ライティング」は有益な研究対象と考えられています。各巻の分売もいたします。

Part 1: Volumes 1-8: 19世紀末イギリス舞台女優

全8巻+別冊解説：河内恵子(慶應義塾大学教授)

ISBN 978-4-86340-050-4 • c. 3000 pp.

定価 本体133,000円+税 ▶2010年11月

Volume 1: Theodore Martin *Helena Faucit (Lady Martin)* (1900)

ISBN 978-4-86340-051-1 • 18,000円+税

Volume 2: Ellen Terry *The Story of My Life* (1908)

ISBN 978-4-86340-052-8 • 21,000円+税

Volume 3: Sarah Bernhardt *My Double Life: Memoirs of Sarah Bernhardt* (1907)

ISBN 978-4-86340-053-5 • 20,000円+税

Volume 4: Mary Anderson *A Few Memories* (1896)

ISBN 978-4-86340-054-2 • 15,000円+税

Volume 5: Lillie Langtry *The Days I Knew* (1925)

ISBN 978-4-86340-055-9 • 15,000円+税

Volume 6: Arthur Symonds *Eleonora Duse* (1926)

ISBN 978-4-86340-056-6 • 12,000円+税

Volume 7: Elizabeth Robins *Both Sides of the Curtain* (1940)

ISBN 978-4-86340-057-3 • 16,000円+税

Volume 8: Elizabeth Robins *Theatre and Friendship: Some Henry James Letters* (1932)

ISBN 978-4-86340-058-0 • 16,000円+税

Part 2: Volumes 9-12: アメリカ児童文学作家 I

全4巻+別冊解説：三浦玲一(一橋大学教授)

ISBN 978-4-86340-085-6 • c. 1900 pp.

定価 本体75,000円+税 ▶2011年11月

Volume 9: Mary E. Dewey, ed. *Life And Letters of Catharine M. Sedgwick* (1871)

ISBN 978-4-86340-086-3 • 18,000円+税

Volume 10: George L. Prentiss *The Life and Letters of Elizabeth Prentiss: Author of Stepping Heavenward* (1882)

ISBN 978-4-86340-087-0 • 22,000円+税

Volume 11: Anna B. Warner *Susan Warner ("Elizabeth Wetherell")* (1909)

ISBN 978-4-86340-088-7 • 20,000円+税

Volume 12: Olivia Eggleston Phelps Stokes *Letters and Memories of Susan and Anna Bartlett Warner* (1925)

ISBN 978-4-86340-089-4 • 15,000円+税

Part 3: Volumes 13-18: アメリカ児童文学作家 II

全6巻+別冊解説：三浦玲一(一橋大学教授)

ISBN 978-4-86340-090-0 • c. 2350 pp.

定価 本体95,000円+税 ▶2011年11月

Volume 13: Kate Douglas Wiggin *My Garden of Memory: An Autobiography* (1923)

ISBN 978-4-86340-091-7 • 19,000円+税

Volume 14: Nora Archibald Smith *Kate Douglas Wiggin as Her Sister Knew Her* (1925)

ISBN 978-4-86340-092-4 • 16,000円+税

Volume 15: Vivian Burnett *The Romantick Lady (Frances Hodgson Burnett): The Life Story of an Imagination* (1927)

ISBN 978-4-86340-093-1 • 18,000円+税

Volume 16: Jeanette Porter Meehan *The Lady of the Limberlost: The Life and Letters of Gene Stratton-Porter* (1928)

ISBN 978-4-86340-094-8 • 17,000円+税

Volume 17: Annie Fellows Johnston *The Land of the Little Colonel: Reminiscence and Autobiography* (1929)

ISBN 978-4-86340-095-5 • 10,000円+税

Volume 18: Alice Hegan Rice *The Inky Way* (1940)

ISBN 978-4-86340-096-2 • 15,000円+税

Part 4: Volumes 19-23: イギリスの芸術家 I

全5巻+別冊解説：松村昌家(大手前大学名誉教授)

ISBN 978-4-86340-097-9 • c. 1850 pp.

定価 本体84,000円+税 ▶2011年11月

Volumes 19-21: William Powell Frith *My Autobiography and Reminiscences* (1887; 1888 ed.)

ISBN 978-4-86340-098-6 • 3 vols • 51,000円+税

Volumes 22-23: William Powell Frith *John Leech: His Life and Work* (1891)

ISBN 978-4-86340-099-3 • 2 vols • 33,000円+税



【発行】

Athena Press

株式会社 アティーナ・プレス



〒112-0011 東京都文京区千石4-33-18

Tel: 03(3946)2117 Fax: 03(5977)8026

E-mail: eigyo@athena-press.co.jp

http://www.athena-press.co.jp

【取扱書店】